

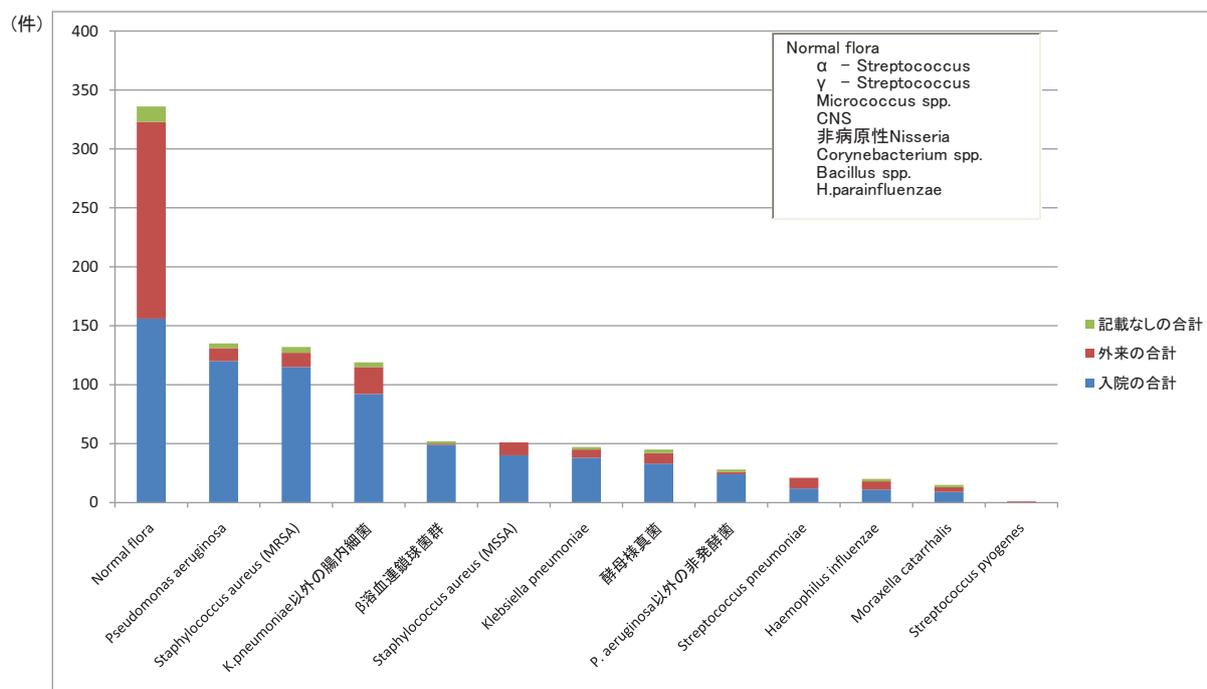
細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況及び細菌薬剤感受性情報を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、入院患者から多く検出されている、緑膿菌（*Pseudomonas aeruginosa*）の細菌検出状況と細菌薬剤感受性情報を掲載いたします。

【細菌検出状況】

【喀痰】細菌検出状況 2018年01月



呼吸器感染症は、鼻腔から副鼻腔、咽頭、喉頭までの上気道と、気管から肺胞までの下気道の感染症に大きく分けられます。

当検査センターの2018年1月分の統計で、Normal floraを除き、最も多く喀痰から検出されている菌は、緑膿菌（*Pseudomonas aeruginosa*）です。緑膿菌は、土壌、水など自然界の至るところに広く分布しており、免疫力の低下している入院患者などに対して呼吸器疾患を起こしやすく、院内感染や日和見感染の代表的な原因菌とされています。

【細菌薬剤感受性情報】

2018年1月分

アンチバイオグラム（緑膿菌 *Pseudomonas aeruginosa*）

系統	薬剤記号	商品名	%		
			S(感性)	I(中間)	R(耐性)
ペニシリン系	PIPC	ペントシリン	94	0	6
セフェム・オキサセフェム系注射薬	CMX	ベストコール	31	62	8
	CAZ	モダシン	87	7	6
	CZOP	ファーストシン	96	4	1
	CFPM	マキシピーム	97	3	0
カルバペネム系	IPM	チエナム	71	5	24
	MEPM	メロペン	79	7	15
	DRPM	フィニボックス	82	13	4
	BIPM	オメガシン	77	16	7
その他β-ラクタム系	AZT	アザクタム	66	18	15
	S/C	スルペラゾン	84	15	1
	T/P	ゾシン	87	7	6
アミノグリコシド系	AMK	アミカシン	99	0	1
	TOB	トブラシン	99	0	1
	DKB	パニマイシン	100	0	0
	GM	ゲンタシン	99	0	1
	ISP	イセパシン	98	1	1
テトラサイクリン系	MINO	ミノマイシン	0	2	98
その他抗菌薬	FOM	ホスミン	15	19	66
合成抗菌薬	LVFX	クラビット	78	5	17
	TFLX	オセックス	82	3	15
	CPFX	シプロキシサン	79	6	15
	NFLX	バクシダール	92	8	0
	PZFX	パシル	85	2	13

多剤耐性緑膿菌（Multi-drug Resistant *Pseudomonas aeruginosa* : MDRP）

イミペネム（IPM）、アミカシン（AMK）、シプロフロキサシン（CPFX）の3種類の抗菌薬に対して耐性を示す緑膿菌と定義されています。また、MDRPには、メタロβラクタマーゼ（MBL）を産生するMBL型と非産生型があり、MBL型はほぼ全てのβ-ラクタム系薬剤に耐性を示すとされています。

当検査センターではIPM：R、AMK：I・R、CPFX：Rの場合、MDRPとして報告させていただいております。2018年1月分の統計では、MDRPは検出されていません。

当検査センターホームページでは詳細な情報をご覧ください。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>

検査科微生物係